

# 教科指導に向けた校内指導体制

## 指導関係者の連携が不可欠

### 連携の目的は2つ

- ★指導上の専門性を補完するため
- ★指導に必要な情報を補完するため

### 連携の仕方は多様

- 例) 取り出し指導での連携
- 教材作成時の連携
- 授業計画時の連携 等

☆☆☆☆☆☆☆☆  
指導段階や指導目標によって、役割分担の仕方は異なる（役割分担は固定的ではない）。

☆☆☆☆☆☆☆☆  
一人の教員や指導者の指導技術だけが磨かれても、外国人の子どもの教科学習力を高めることはできない。

☆☆☆☆☆☆☆☆  
外国人の子どもの指導の主たる場は在籍学級。取り出し指導の役割は、在籍学級で十分に対応できない点を補うこと。在籍学級での指導を中心に、指導計画を立てる。

## 指導関係者の教科指導上の役割

### 【学校管理職の役割】

- ◆校務分掌上、適材適所（特に、日本語指導担当者の人選）を考える。
- ◆全校的な指導体制やシステムの整備を推進する。
- ◆学校としての指導方針を明確にし、教職員の合意形成を図る。
- ◆指導に必要なリソースを確保する（外部機関との連携や外部人材の活用）。

### 【学級担任（教科担任）の役割】 ☆主たる指導者☆

- ◆日々の授業で「わかりやすい授業」を行う。
- ◆取り出し指導を修了した子どもの各教科の学習状況を把握し、つまずきがないかどうかを確認する。
- ◆日本語指導担当や教科担任等と指導上の配慮の必要について考える。

### 【教科担任の役割（特に中学校）】 ☆教科指導の専門家☆

- ◆教科指導を行う上では、教科の専門的知識が必要。日本語指導担当の専門外教科の指導においては、教科担任の協力が不可欠。
- ◆外国人であろうとなかろうと、子どもが学習上でつまずく教科内容や領域がどこなのかを、日本語指導担当や外部支援者に伝える。
- ◆子どもがつまずきやすい学習内容において、つまずきを軽減するための手立てを、日本語指導担当や外部支援者に伝える。
- ◆授業に先立ち、学習内容の理解に不可欠な語彙や表現について、子どものレディネスを確認する（教師が「当然わかっているだろう、知っているだろう」と思う語彙や表現を、意外に子どもは知らない）。

### 【日本語指導担当の役割】 ☆情報コーディネーター☆

- ◆日本語指導を行うことだけが、日本語指導担当の役割ではない。
- ◆外国人の子どもが教科学習上でつまずく箇所や内容について、学級担任や教科担任に情報提供をしたり、授業づくりや教材作成の助言を行ったりすることが、日本語指導担当ならではの役割。
- ◆日本語力が十分でない子どもが、教科学習に必要な語彙や表現のうちどれが理解しにくいのかを、学級担任や教科担任に伝える。
- ◆どういう言い回しや説明をすれば、語彙力や表現力が十分でない子どもでも理解できるのかを、学級担任や教科担任者に伝える。
- ◆日本語力だけでなく文化の相違によって生じる学習上や生活上のつまずきに関して、学級担任や教科担任に情報提供をする。

### 【外部支援者（日本語指導員、母語支援員、ボランティア等）の役割】

#### ☆教師のサポート役☆

- ◆学級での一斉指導の中で見落とされがちな子どものつまずきや細かな指導が行えない内容に対して、目を配り改善や習得を図ること。（学級では指導が行き届きにくいところ）
  - ・初期日本語の習得
  - ・未定着内容や未習内容の補習
  - ・母語の習得や維持
  - ・在籍学級の学習の復習
  - ・反復学習や宿題の支援
  - ・話し相手
- ◆子どもの母語や母文化が理解できる外部支援員は、日本と母国の教育制度や学習内容の相違点を、校内の指導関係者に知らせる役割も。
- ◆学校によって、子どもによって、外部支援者の役割は異なる。